

令和7年度 前期 学校評価（自己評価）について

学校評価アンケートの4段階評価は、

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えばそう思わない 1:そう思わない
として行いました。成果と課題の分析においては、4（そう思う）と3（どちらかと言えばそう思う）を合わせたものを、肯定的な回答の割合として使用します。

Ⅰ 確かな学力の定着

質問内容	生徒	保護者	教職員
授業に意欲的に取り組んでいる（生徒）/学校は生徒が授業に意欲的に取り組むよう指導している（保・教）	76%	93%	100%
授業中に自分の意見や考えを言える（生徒）/学校は生徒が自分の意見や考えをしっかりと言えるように指導している（保・教）	56%	87%	94%
家庭学習が習慣になっている（生徒・保）/学校は生徒が継続的に家庭学習に取り組むよう指導している（教）	43%	87%	95%
朝の読書活動により、いろいろな本を読むようになった（生徒）/お子さんは読書に関心や意欲をもっている（保）/学校は生徒が読書に意欲的に取り組むよう指導している（教）	57%	77%	83%
あなたの能力や努力は適切に評価されている（生徒）/学校は生徒の能力や努力を適切に評価している（保・教）	82%	85%	100%

○成果

教職員と保護者の評価では、生徒が授業に意欲的に取り組むよう指導していることや、生徒の能力・努力を適切に評価していることについて、非常に高い肯定割合となっており、学校の指導への信頼をいただいていると考えます。

生徒の「あなたの能力や努力は適切に評価されている」の肯定割合も82%と高く、学校の評価の取組が生徒にも概ね受け入れられていると考えます。

●課題

生徒の自己評価では、「授業中に自分の意見や考えを言える」の肯定割合が56%と、教職員（94%）や保護者（87%）の評価と比較して大きく乖離しており、R7目標の80%とも差が大きいです。生徒が実際に授業で発言することに、課題があることがわかりました。

生徒の「家庭学習が習慣になっている」の肯定割合が43%と低く、「家庭学習の充実」の取組が、生徒の習慣化にまで繋がっていないことがわかりました。

「朝の読書活動により、いろいろな本を読むようになった」の生徒肯定割合57%、「読書に関心や意欲をもっている」の保護者肯定割合77%は、他の項目に比べると低く「読書活動の推進と学校図書館の有効活用」について、さらなる取組の強化が必要と考えています。

☆後期への取組

- ・授業で「考えを書く（入力する）」活動を強化します。
- ・家庭学習でもタブレットを活用できるよう持ち帰りを推進します。
- ・1・2年生は、朝の読書活動を強化します。

2 健康・安全教育の充実

質問内容	生徒	保護者	教職員
交通ルールを守り、安全に登下校している（生徒）/学校は事故防止や登下校の安全に努めている（保・教）	96%	93%	100%
学校の施設・設備は整っている	87%	73%	100%
清掃や奉仕作業などに積極的に取り組んでいる（生徒）/学校は校内の環境美化に取り組んでいる（保・教）	87%	73%	100%

○成果

安全教育については、生徒（96%）、保護者（93%）、教職員（100%）の全てで高い評価が得られており、学校が「事故防止や登下校の安全に努めている」こと（保護者・教職員）、および「交通ルールを守り、安全に登下校している」（生徒）ことが定着していると考えます。

「学校の施設・設備は整っている」について、教職員の肯定割合は100%、生徒も87%と高く、施設・設備が概ね良好な状態にあると考えます。

●課題

「学校の施設・設備は整っている」と「学校は校内の環境美化に取り組んでいる（または清掃に積極的）」の項目で、保護者の肯定割合が73%と、教職員（100%）や生徒（87%）の評価と比べて低く、学校外からの視点や、保護者への情報共有の面で改善の余地があると考えます。今後とも、積極的な情報共有を図ります。

☆後期への取組

- ・清掃や奉仕活動への取組について、より一層の情報提供を行います。
- ・清掃のやり方を委員会に紹介してもらい、生徒自身の環境美化の意識を高めるような取組を行います。

3. 豊かな人間性の育成

質問内容	生徒	保護者	教職員
挨拶や礼儀、マナーなどが身についている（生徒・保） /学校は挨拶や礼儀、マナーなどを指導している（教）	82%	86%	94%
運動会などの学校行事に意欲的に取り組んでいる（生徒・保） /生徒は運動会などの学校行事に意欲的に取り組んでいる（教）	89%	87%	100%
部活動に意欲的に取り組んでいる（いた）（生徒）/学校は部活動指導を熱心に行っている（保・教）	75%	77%	94%
いじめを見たり聞いたりしたら、友だちや先生、家庭などに相談して早く解決するようにしている（生徒）/学校はいじめのない学校づくりに努めている（保）/学校はいじめのない学校づくりに組織的に取り組んでいる（教）	80%	85%	100%
インターネットやスマートフォン、SNS等を正しく使うことができる（生徒）/お子さんは使い方についてルールを決めて使用している（保）/学校は使い方について指導している（教）	92%	77%	100%

○成果

学校行事への意欲について、生徒（89%）、保護者（87%）、教職員（100%）の全てで高い評価があり、「諸活動（学校行事等）を通した豊かな人間関係づくり」が成果を上げていると考えます。

いじめ対応については、教職員（100%）、保護者（85%）の評価が高く、「いじめは絶対しない、させない、許さない」という組織的な取組が機能していると考えます。生徒の「相談して早く解決するようにしている」の肯定割合も80%と高いです。

●課題

情報モラルに関して、生徒の「正しく使うことができる」の肯定割合は92%と高いですが、保護者の「お子さんはルールを決めて使用している」の肯定割合は77%に留まり、家庭でのルール作りや運用の定着に課題があることが示唆されます。

「挨拶や礼儀、マナーなどが身についている」について、生徒の肯定割合82%は、教職員の評価94%と比べてやや低く、経営方針の「心の通う挨拶と黙礼の実施」の目標達成に向け、生徒自身の意識向上が必要と考えています。

☆後期への取組

- ・家庭でのスマホ等の使い方について、一層の情報提供を行います。
- ・大人からの積極的な挨拶や声掛けを行います。

4 信頼される学校づくり

質問内容	生徒	保護者	教職員
学校生活が楽しい（生徒）/お子さんは楽しく学校生活を送っている（保）/生徒は楽しく学校生活を送っている（教）	80%	84%	100%
自分の良い所(長所)を理解している（生徒）/学校はお子さんの自己肯定感や自己有用感を高めるよう指導している（保）/学校は生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるよう努めている（教）	43%	86%	94%
悩みを相談できる先生がいる（生徒）/学校は生徒の悩みに適切に対応している（保）/学校は生徒の悩みに迅速にかつ組織的に対応している（教）	67%	73%	84%
長南中学校の生徒でよかった（生徒）/お子さんは長南中の生徒でよかった（保）/生徒は長南中学校の生徒として誇りをもっている（教）	90%	83%	84%
各種たよりやホームページを読んでいる（生徒）/学校は各種たよりやホームページで情報を提供している（保・教）	30%	77%	100%
学校は保護者との連絡を密にしている	—	87%	94%

○成果

生徒の学校生活への満足度は高く、「長南中学校の生徒でよかった」の生徒肯定割合は90%、保護者肯定割合も83%であり、学校の取組が「子どもの夢や目標、活力ある姿の実現」に繋がっていると考えます。

保護者との連携について、保護者（87%）、教職員（94%）ともに高い評価であり、連携が円滑に行われていると考えます。

●課題

自己肯定感・自己有用感の育成が最大の課題です。生徒の「自分の良い所(長所)を理解している」の肯定割合が43%と全質問項目で最も低いです。大人（教職員 94%、保護者 86%）は指導していると評価していますが、それが生徒の自己認識に繋がっていないため、「一人一人へのきめ細かな対応による信頼関係の確立」を強化し、生徒の内面に働きかける指導への改善が急務であると考えています。

生徒の「悩みを相談できる先生がいる」の肯定割合が67%と、教職員（84%）や保護者（73%）の評価と比べて低いです。これは「生徒と関わる時間の確保」や、「組織としての素早い対応」といった、生徒の信頼関係の確立に関する取組をさらに強化する必要があると考えています。

☆後期への取組

- ・良いところを積極的に評価し、生徒に伝えるようにします。
- ・心の健康観察を行い、積極的に生徒に声をかけるようにします。
- ・教職員の情報共有を密に行い、全職員で生徒一人一人を支援します。

5 郷土を愛する心の育成

6 小中一貫教育の充実

質問内容	生徒	保護者	教職員
芸術鑑賞会や地域の方々との体験学習（職場体験学習）は楽しい（生徒）	87%	—	—
長南町や千葉県歴史や自然に関心がある（生徒）	53%	—	—
学校は職業観や勤労観の育成等、キャリア教育を熱心に行っている（保・教）	—	93%	100%
小中連携により中学校生活にとまどうことがなかった（生徒）	78%	—	—
学校は小中連携の推進を図っている（保・教）	—	73%	77%

○成果

「芸術鑑賞会や地域の方々との体験学習（職場体験学習）は楽しい」の生徒割合が87%と高く、また、教職員（100%）、保護者（93%）ともに、キャリア教育を熱心に行っていると評価しており、「郷土学習の充実」や「キャリア教育の充実」の取組が浸透していると考えます。

生徒の「小中連携により中学校生活にとまどうことがなかった」の肯定割合が78%であり、R7目標の80%に近い水準で、中1ギャップの解消に向けた取組が概ね成果を上げていると考えます。

●課題

生徒の「長南町や千葉県歴史や自然に関心がある」の肯定割合が53%と、体験活動の楽しさ（87%）と比較して関心の定着に課題があり、「郷土を愛し」の目標達成に向け、より一層の取組が必要と考えています。

「学校は小中連携の推進を図っている」に対する教職員（77%）と保護者（73%）の肯定割合が、全質問項目の中で最も低い水準にあります。これは「小中連携の推進」に対する評価が他分野に比べて低く、特に教職員は、連携の実践における負担や課題を感じている可能性があります。「9年間通した学びと育ちの連続性を重視した教育の推進」のため、「教職員の意識の向上」や「相互授業参観」など、より実効性の高い連携の推進が求められると考えています。

☆後期への取組

- ・郷土学習が、地域を見直す機会となるよう、話しかけを行います。
- ・相互授業参観を積極的に行います。